1 / 2 ページ
テーマワークショップタイトル担当大学名ワークショップ主旨
 便利の“ 裏側 ”
～日常にひそむ見えない戦争～
新潟国際情報大学
　現在、私達の生活に欠かせない電化製品。その電化製品にはレアメタル
と呼ばれる希少金属が使われている。しかし、世界の紛争にはこの希少金
属の取り合いが原因となっているものもある。コンゴ紛争はその一例であ
る。ワークショップを通じて私達の身近な生活に潜む「世界の現実」を再発
見し、今までの生活の在り方を振り返り自分の考えや周りの物事について
新しい視点を持ってほしい。このワークショップで、たてる問いは、以下の４
点である。
　①現実の紛争とは何なのか？②その紛争はなぜ起きるのか？③その紛
争と自分達は無関係なのか？④私たちは何をすべきか？児童や生徒とと
もに考えたい。
学校に行きたい！
～貧困と世界の子どもたち～
敬和学園大学　
　現在、日本では当たり前のように、学校に行っているが、世界にはいまだ
学校に行けない子どもたちもいる。
　世界の学校に行けない子どもたちを取り上げることによって、この問題は
児童労働や衛生環境の悪さなど様々なことが原因となっていることを知っ
てもらう。
キュウブンノイチ～満腹と空腹～ 新潟県立大学
　「1/9」とは？2015年の国連の調査によると7億9500万人、つまり9人に1人
の人間が満足に食料を得ることができないのが現状であるとのことであ
る。
　今回のワークショップでは世界と日本の食べ物の問題について取り上げ
る。どうして「1/9」の存在が生まれてしまうのかを世界と日本、さらに私たち
自身の食生活と比較して考え、理解・関心を深める。そして、「1/9」の存在
は世界だけではなく日本にも存在するという事実を取り上げることにより、
食べることに対する意識を変え、「私たちに何ができるのか」についてグ
ループ活動を通じて解決策を作る活動に発展していく。
作られた食糧危機
～私たちはいつ、満腹になるのか～
新潟国際情報大学
　世界には全人口を飢餓から救うだけの食糧は本当にないのだろうか。い
や、そんなことはない。私たちの生活がより便利になり、食べ物があふれて
いる一方で、未だ世界には９人に１人が飢餓に苦しんでいる。一体なぜこ
の差はうまれるのか。そして、途上国の食糧不足はどうしても避けられない
運命なのだろうか。
　本ワークショップでは、食糧という身近なものを通して、その背景にある飢
餓の問題を考える。その上で、なぜ飢餓が無くならないのか、何が飢餓を
成り立たせているのか自分自身と関連づけて話し合いたい。
わたしって何色？
～LGBT(性的マイノリティー)からみる人権問題～
※中学・高校生対象
新潟国際情報大学
　好きってどういうことだろう？好きにはいろいろな形があり、男女間だけで
なく男が男に、女が女に恋愛感情をもつ場合もある。だれがだれを好きか、
第三者が制限することはできるだろうか。日本では20人に1人の割合が
LGBT(性的マイノリティー)だと言われている。
　このワークショップでは、LGBTから人権という大きな枠組みの問題に触
れ、また互いの個性を認め合い、個人の能力を発揮できる社会をどう作る
か考えるきっかけにしたい。
肌色って何色？
～人種のるつぼ、アメリカの差別問題～
敬和学園大学　
　まず、私たちが「肌色」でイメージする色が実は世界に共通する「肌色」で
ないことに気付いてもらう。そして、私たちが抱くこのイメージが、一部の
人々の価値観を一般化した固定観念であることに気付いてもらうために、
アメリカにおける人種差別を例として取り上げる。これを踏まえ、見た目が
異なることは当たり前であるということを感じてもらう。
MAJONORITY ~What is a world gap?~
※英語ワークショップ対応
（英語・日本語の割合は応相談。全編日本語
も可能。）
新潟県立大学
　世界には、言語、食糧、所得などさまざまな格差が存在する。本ワーク
ショップでは、「世界がもし100人の村だったら」を題材とし、シミュレーション
ゲームを通してマジョリティやマイノリティを体験してもらう。そこで、同じ立
場を経験した人と自分の気持ちを共有し、また自分とは異なる立場を経験
した人とは、共生していくために取るべき行動を考えてもらう。そして、世界
の格差をなくすためにできることを考えてもらう。
　There are various gaps in the world, for example, languages, foods and
incomes. In this workshop, we pick up on “If the world were a village of
100 people”. We would like the students to experience the feelings of
majority and minority through simulation games. Students talk about how
they felt in their position with the students who had same experience.
Moreover, students who had various experiences gather and they will talk
about what they should do to live equally each other. In addition, they will
think about gaps in the world.
③異文化理解
How are you?
 ～かかわらないともったいない～
※英語ワークショップ対応
（英語・日本語の割合は応相談。全編日本語
も可能。）
新潟国際情報大学
　あなたは、見た目や価値観の違う人と出会った時、「あまり関わりたくな
い」と思ったことはないだろうか。現在、多様な文化と交流する機会が増え
ている。２０２０年には東京オリンピックが開催され、日本にも多くの人が訪
れるだろう。これは自分の視野を広げる絶好のチャンスではないだろうか。
　このワークショップでは、身近な物事を出発点として、「なぜ自分と馴染み
のない文化を持った人と関わりたくないと思うのか」、「どうやって関わって
いくか」体験を通じて考える。将来、私たち一人ひとりが「自分から世界に
関わる大切さ」を学んでいく。
平成28年度　ワークショップタイトル・要旨　一覧
※特に記載のあるもの以外、小・中・高校　全学年を対象としています。
※ワークショップ主旨は変更になる場合があります。
①世界の現実
②世界の
不平等
別 紙

2 / 2 ページ
こんなときどうする！？
～異文化理解への旅～ 新潟国際情報大学
　異文化を理解するということはどういうことだろうか。
　例えば、友人同士でハグをする場面に遭遇したとき、実際にハグすること
が理解したことになるのか。あるいは、ハグは断るが、そのような習慣があ
ることを知っていれば理解したことになるのか。またそれ以外にも何か他に
方法があるのだろうか。
　本ワークショップでは挨拶や食事など様々な場面での日本とは異なる文
化を取り上げる。そこで自己の文化を見つめ直すとともに、様々な場面で
の行動や感じ方、さらにその理由を考えることで、参加者一人一人の「異文
化理解」とは何かを考えていきたい。
外国語って英語だけ？
～新潟で学ぶ多文化・多言語社会～
敬和学園大学　
　世界には様々な言語があるが、私たちはふつう日本語しか使わない。ま
た、グローバル社会の共通言語として使われているのは英語だけである。
日本人はなぜ第二言語を持たないのか。なぜ英語だけが共通語なのか、
なぜ英語が話せるとかっこいいのか。
　そこで、新潟にも多数暮らしている英米由来ではない異文化・異言語の
住民に目を向け、「異文化理解」といいながら私たちが陥りがちな偏見をた
だし、多文化・多言語社会の真の共存の可能性をみんなで考える。
オリンピックからの挑戦状
～異文化を学び違いを知ろう～
新潟県立大学
　今日、世界には様々な「違い」が存在し、時には衝突を起こすこともある。
また、その問題には文化的要素が関わっている場合もある。本ワークショッ
プでは「オリンピック」を題材とし「違い」を知って、乗り越えることの大切さを
体感し、異文化理解を図る。そこでは、オリンピックを主軸とし「言語」「食」
「服装」の三つを通して異文化理解に迫る。
　具体的な活動内容としては、オリンピックで実際過去に起きた問題を取り
扱い、その問題を子ども達にシミュレーション形式で体験してもらう。そし
て、違いを認識しようという姿勢の大切さを体感し、「違い」を乗り越えること
の重要性を学んでいく。
「日本の中の世界」を知ろう！
～多文化共生のために～
※小学校５年生以上対象
新潟大学
 日本で暮らす外国人は年々増加傾向にある。一口に外国人と言っても国
籍も多様であり、全国各地で様々な事情を抱えながら生活している。現在、
日本には外国籍の人々が多く住んでいる地域や学校などがあり、その場
所によって様々な特徴・問題が存在する。このような在留外国人の実態や
これまでの経緯、最近の傾向など「日本の中の世界」を知ることを通して、
外国人とともに暮らす社会について私たちにできることは何か考えていく。
テーマワークショップタイトル担当大学名ワークショップ主旨
私たちの普通って世界共通？
　世界中には、戦争や内戦などの社会的事情または貧困などの経済的事
情によって、学校に行けず、字も読めない子どもたちがたくさんいる。日本
では当たり前のように通っている学校。安全に通学ができ、教室があり、教
科書があり、先生たちがいる。それがとても幸せなことだということをこの
ワークショップで感じかつ世界中で学べない子どもたちがどのような生活を
送っているかを疑似的体験を通じて知ることを目的とする。
地球温暖化って、いいこと？よくないこと？
　現在、世界中で地球温暖化が問題となっている。日本も地球温暖化を防
ぐことが大きな課題となっており、現在、国が一生懸命取り組んでいる。
　今回のワークショップでは、地球温暖化になれば日常生活などにどのよう
な弊害が生じるのか、また良いことはないのかなど多角的な視野で地球環
境問題を考え、子どもたちが大きくなったときにより深刻に議論されていく
だろう地球温暖化を身近に感じてもらうことを目的とする。
ごみってホントにいらないもの？
　このワークショップでは、日常生活をおくる上で必ず出る「ごみ」に焦点を
当て、環境問題を考えることを目的とする。「ごみ」は果たして「いらないも
の」なのか。世界中のごみ事情を紹介しながら、生徒の皆さんが住んでい
る地域のごみ事情と比較をし、「ごみ」について考える。日本でもいらなく
なった「ごみ」は宝物だと考える企業があるが、そのような取り組みも紹介
し、「ごみ」に対する意識向上を図る。
水から見える世界
　生きていくためには水は絶対に欠かせない。また、日本のみならず世界
で水不足、水質汚染などの水に関する問題が起きている。しかし、最も身
近な存在であるにも関わらず水のことについて私たちはほとんど知らな
い。
　そこで、本ワークショップを通じて、日常ではなかなか気付きにくい社会で
の「水」の使われ方、使用量について理解し、そこから発展して、世界や日
本の水の使用量と普段自分が使用している水の量を比較することで、日常
の生活を共に考えていきたい。
②世界の
不平等
あたりまえ
　私たちは、普段何気なく過ごしているのではないか？家があるのは、あた
りまえ。食べ物があるのは、あたりまえ。学校に行けるのはあたりまえ。し
かし、私たちの生活は、他の国と比べたら、どうなのだろうか？一見、生活
の違いは、私たちと関係のないように見える。しかし、全く繋がりがないこと
は少なく、ただ「知らない」だけである。
　本ワークショップでは、「知る」ところから始まり、共に「平和」について考え
ていきたい。また、ワークショップ後に日常生活レベルでは、何ができるか
を考え続けてもらうことを目指す。
③異文化理解あなたのメガネはどんな眼鏡？
　近年、グローバル化が急速に進み、世界の様々な文化や人が国を超え
て往来し、私たちとの関わりが増してきている。習慣や価値観、背景が異な
る人たちと共に生きていくために、違いを良い・悪いで安易に判断するので
はなく、違いに興味をもち、背景に想いを馳せ、柔軟に受け入れる姿勢を
もってほしい。本ワークショップを通して、自分の先入観と向き合いながら、
自己（日本）と他者（外国）の双方を尊重し合える関係性について考えてい
きたい。
上越教育大学のワークショップは、派遣地域を上越地域周辺（上越市、妙高市、糸魚川市、柏崎市）に限ります。また、10月以降は毎週水曜日の午後を中心に派遣可能です。
日程を調整させていただきます。
①世界の現実
上越教育大学
③異文化理解